

新潟生活

niigata seikatsu 第23号 2014年12月発行

目次 教えて先輩! ●新潟に住み続けることを決意 積み重ねた経験を活かしながら
特集 ●新潟でかええる 子育てと仕事の両立!

～お子様が帰省された際に親子で将来を話し合ってみてください～

教えて先輩! vol.43 新潟に住み続けることを決意

アートを通じた出会い

私は、人と関わるのが苦手だったので、高校時代はクラスの友達数人と話すくらいで、静かに毎日を過ごしていました。進路を決めるにあたっては、アート作品を作ることがとても好きだったこと、地域に出て活動することに興味を持ち始めていたことから、その両方を学べる新潟大学を選びました。

専攻した「芸術環境創造課程」という言葉を聞くと、難しいイメージを持たれるかもしれませんが、講義以外は市民の方とアート活動の打ち合わせをしたり、実際に開催されるイベントにスタッフとして関わるなど、実践的なことがほとんどでした。具体的には、日本海夕日コンサートもその一つで、会場の砂浜を演出する作品を作り、コンサートに来たお客様の動線になるように、作品の展示やステージの装飾に関わりました。

こうした活動により、地域の人や多くのイベントスタッフと関わる機会が増え、内向的だった私の性格を変えてくれました。

子ども達からも学びながら

新潟市中央区にある「新潟市子ども創造センター」は、企画課、運営課、管理課、施設課の4つに分かれて運営しています。18歳までの方であれば、様々な作品作りを体験することができますし、対象年齢毎にプログラムを考えて対応しています。

学校とは異なり、毎回違う子ども達と接するので、毎日が発見や驚きの連続です。道具の使い方や画材の使い方方もそうですし、大人では思いもよらない発想、子どもにはこんな風に見えるんだと思うこともしばしばです。例えば、花と土の中の根を描いている子どもの姿

は、知っていることをきちんと描きたいという気持ちが、まっすぐに伝わってきて感動します。

当センターは、特に自主性を大切にしているので、子ども達で作ってみたい作品を選ぶように工夫しています。中には、絵を大きく描いているうちに、紙からはみ出してしまう子どももいますが、他の参加者に迷惑をかけることがない限り、自由にやらせてもらっています。同時に、普段、学校や家庭と一緒にいる人達だけではなく、様々な人達と関わる場所でもあるので、最低限のルールを守ってもらうようお願いしています。

そうはいつても、実際、子ども達にとっての“自由”と“ルール”の線引きはとても難しいので、私自身、毎日勉強させてもらっています。



鈴木 美果さん (26歳)

新潟市子ども創造センター勤務
新潟市子ども創造センター <http://www.ikutopia.com/facilities/kodomo/>



千葉市出身。高校卒業後、新潟大学教育人間科学部 芸術環境創造課程に進学。在学中にアート活動や地域活動を行う中で、地元の人との繋がりが深くなり、新潟に住み続けることを決意。大学卒業後は、「新潟市子ども創造センター」に就職し、アートを通じて「生きる力」を伸ばすプログラムの企画を担当。

教えて先輩! vol.44 積み重ねた経験を活かしながら

35歳で起業

幼い頃から絵を描くのが好きで、デザイナーになるため、専門学校に進学しました。今考えると「親から離れたくない」「田舎から出たい」という気持ちよりも、旅行気分だったのかもしれません。ただ、独立心が強かったので、親には、進学や就職の時も、ある程度学校や就職先が決まってから報告していました、学費も新聞社の奨学金制度に応募し、自分で工面しました。

専門学校を卒業後は、エディトリアルデザイナー*として、都内のデザイン事務所に就職し、ゲーム関連の雑誌を多く担当していました。当時、世の中は不景気と言われていましたが、様々な家庭用ゲーム機がヒットし、新作ゲームがたくさん発売されるほどの成長産業でした。忙しくも、楽しい日々を過ごしていたのですが、昔から独立心が強かったこともあり、35歳の時に都内で起業しました。

起業した会社は、私を含めて3人でスタートし、少しずつ仕事が増え、順調に業績が上がっていました。しかし、その矢先ちょっとした出来事がきっかけで、一気に状況が変わってしまいました。私の中で

は、まだまだ頑張りという気持ちがあった半面、ここでリセットするのもいいかなとも考えるようになり、最終的に約20年間の東京生活にピリオドを打ち、三条に戻ってきました。

三条を楽しい街にしたい

戻って来て、初めて仕事目線で三条を見たときに、何か物足りない部分を感じました。実際、私が出来るようなことが何となく分かったのですが、同時に、18歳で地元を離れたため、仕事の相談ができる相手がいないうすればかりの真剣に悩みました。正直、年齢的なハンデも感じていました。そこで、高校時代の友人に連絡を取って相談してみたのですが、いつの間に

か、経営者になっていたりと、会社で部下がいるなど、意思決定できる立場の人が多くなっていくことに驚きました。そして、そんな彼らからアドバイスをもらっているうちに、「年齢=経験豊富」であり、決してハンデではないと考えられるようになりました。

最近では、三条市内で行われているイベントにスタッフとして参加するなどして、もっともっと楽しい街になるようなアイデアを考えています。地域の中で、様々な人と出会いながら、自分なりに街をデザインできたいなと思っています。

その気になれば、何でもできるのが、生まれ育った街だと思いますし、地元とは、そういう場所ではないでしょうか。

*エディトリアルデザイナー
雑誌、本、カタログ、マニュアル本等、文章が比較的多い編集記事をデザインする仕事。読面の美しさと読みやすさの両方が要求される。



佐藤 克昌さん (40歳)

ART Direction PICT代表
ART Direction PICT <https://www.facebook.com/adpict>



三条市出身。高校を卒業後、都内の専門学校に進学。卒業してからも、都内の出版系のデザイン事務所に就職し、健康雑誌、旅行雑誌、ゲーム関連の雑誌を担当。その後、起業。そして、2年前にUターンし、現在は、三条を楽しい街にしたいという考えの基、様々な活動に携わる。

子育て世代と企業をつなぐ

長岡市 グローカルマーケティング株式会社 代表取締役 今井 進太郎 さん
「トキっ子くらぶ」ホームページ <https://tokicco.net/>



長岡市出身。大学卒業後、東京都内でのマーケティング会社勤務を経て、Uターン。平成18年に起業し、「マーケティング支援事業」と「子育て支援事業(トキっ子くらぶ)」に取り組む。平成25年には実家の「建材事業」を経営統合し、会社名を「グローバルマーケティング株式会社」と改称。現在、「トキっ子くらぶ」は会員世帯数が約80,000世帯、サポート店は750店舗を超えている。

きっかけは「子育てにかかわりたい」という思い

大学を卒業してからは、東京都内でマーケティングに携わる仕事をしていました。東京では3年間勤務しましたが、その中で、マーケティングを通じて新潟の中小企業を支援したい、新潟の魅力を発信するお手伝いがしたいと思うようになり、Uターンを決意しました。

2006年に起業したのですが、準備を進めるうちに、マーケティングに加えて「子育て支援」についても考えるようになりました。きっかけは、私自身に子どもが産まれることになり、子育てにかかわりたいと思うようになったからです。「子育て」について、自分に何が出来るかを考え、最終的に民間企業が積極的に子育て支援に参加し、社会全体で子育てを支援する仕組みをつくらうというアイデアに至りました。そして、マーケティングの仕事を通じて多くの会社やお店とつながりができていたこともあり、2007年から、子育て家庭優待カードの発行、無料情報誌の発行、イベントの企画・実施などを展開する「トキっ子くらぶ」に取り組み始めました。

ポイントは父親の子育て参加

これからの社会では、仕事と子育ての両立を考えることが大切ですが、両立を進めていくうえで、ポイントとなるのは、父親の

育児への参画だと思っています。「トキっ子くらぶ」でも、男性の育児休業取得者に特典をプレゼントする「トキパパ応援団」を企画するなど、父親が育児休業を取得することの応援に力を入れています。

最近の子育て家族を見ても、父親が「育児をする」という意識は強くなっていると思います。また、社会全体でも、父親の育児参画に少しずつ理解が進んでいると感じています。「トキっ子くらぶ」でも、情報誌「トキっ子ラウンジ」やホームページなどの情報発信を通じ、男性の育児参画に対する意識を少しでも高めよう取り組んでいます。特に、男性の育児休業取得者が増えたいという思いがあります。数日間の育児休業の取得であっても、父親が子育てに向き合う時間をつくることは意義があると思うので、これからの若い人達には積極的に考えて欲しいと思います。

生活に密着した「トキっ子くらぶ」を目指して

ある飲食店では、会員証を提示してサービスを受ける人が1ヵ月に300件程度あるということで、「トキっ子くらぶ」が浸透しているという実感があります。今後は、「トキっ子くらぶ」がより子育て世帯の生活に密着した存在になりたいと考えています。例え



ば、地域の医療機関や週末のお出かけの参考になるイベント情報など、子育てに必要な情報を、まずは「トキっ子くらぶ」のホームページで探してもらおう、という存在になればと思います。

子育て支援に携わっているからには、子育て家庭の声を企業やお店に届け、子育て環境の改善につなげる役割を果たしたいと思っています。あくまでも、優待カードが利用できるサービス店になってもらうことはきっかけに過ぎません。その後、こちらから子育てをする人たちの目線で事業内容を提案し、企業や店舗から子育て環境づくりに貢献してもらおうことが自分たちの役目だと思っています。



Uターン情報誌

「新潟生活」と「新潟Uターン情報」をセットで無料送付しています。

新潟生活

- 新潟にUターンした先輩の体験談
- 新潟の豊かな暮らしや魅力的な仕事の紹介など

新潟Uターン情報

- 新潟県内企業の紹介
- 就職活動の動向
- 就職ガイダンスのお知らせなど

送付をご希望の方は、ニイゲットでお申込み、又は新潟県県民生活課までお問い合わせください

新潟くらしのポータルサイト niiGET

http://www.niiget.jp

- ニイガタビト 週替わりで「新潟人」にフォーカスした特集を掲載しています
- オススメ情報 新潟のグルメイベントなどの口コミ情報を週5回お届けします
- 注目情報 長期にわたって開催されるイベントや、参加募集についてお知らせします
- 新潟トピックス 新潟県内の社会・経済情報を見ることが出来ます

お申し込み・お問い合わせ

新潟県県民生活課
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
TEL025-280-5112(直通)

